

井戸端だより

第14号

発行日 96・7・2

発行 ぐらしの学習会

梅雨が来れば思い出す 2年前の濁水を 梅雨が来れば思い出す 2年前の断水を
椿も五月もみんな枯れちゃった 水、水、水、と誰もが言ってた のどもと過ぎれば忘れ
かけ 節水努力は いつまでも (夏の思い出の替え歌を一つ)

暑くなってきました。雨が続けば、洗濯物の万国旗に囲まれてため息をつきながらも、一方で雨雨降れ降れもつと降れと思う気持ちは2年前の濁水のおかげでしょうか。

さて、少し遅くなりましたが、井戸端だより14号をお届け致します。

今回は、何と言っても三カ村泉の周辺のゴミ大掃除の話を最初にしなければならないでしょう。色々アンテナを張ってやっとキャッチした情報をもとに私達も何かできないかと5月3日当日朝、数人が現場におもむきました。トラック・クレーン・ショベルカー+人海戦術で、日頃慣れていない私達がとうてい手伝えるようなものではありませんでした。

次々に出て来るゴミゴミゴミ。ゴミが堆積してあたかも土のようになっていて、日頃私達の目に見えていたのは、堆積したゴミの上にとまった比較的新しいゴミだけだったようです。水利組合の方々、町産業課課長はじめ町の方も出て懸命に作業していらっしやいました。何回人の手で集めたゴミをクレーンで上げ、何回トラックのゴミを捨てに行かれたことでしょう。そのご苦労に頭が下がりました。

ゴミ掃除の数日後行ってみると、ゴミをどけて大きくえぐられたようになった所は客土をしてカバーしてありました。いいとか悪いとかではなく、今現実にあるこの状況を受け止めた上で、今後ここをどの様に保護していったらいいのかを私達なりに考えていきたいと思います。できれば、私達が強く要望していた会を一日も早く開催していただき、各界の専門家の意見、それぞれの立場の人の意見を出し合った上で、町としてのこの保護の方法を決めていただくことを切に願ってやみません。2000部近く売れた泉の絵はがきに託されたみんなの願いが無駄にならないことを祈りつつ……。

第3弾の出会い塾では、教育担当の朝日新聞記者川崎さんのお話をうかがいました。やる気、元気が伝わって来るバイタリティあふれる彼女のお話に、時の過ぎるのを忘れました。(詳しくは、後の記事をお読み下さい)

5月の例会は第4月曜に行いました。場所をドライブがてら野外へ移し初夏の緑を味わいながら集おうということで当日都合のいいものが参加しました。たまには、こんな試みもいいものですね。リフレッシュして、また明日からの毎日に立ち向かう勇気が湧いてくるような気がしました。総論はこれぐらいにして、これから各論に入りましょう。

(1)

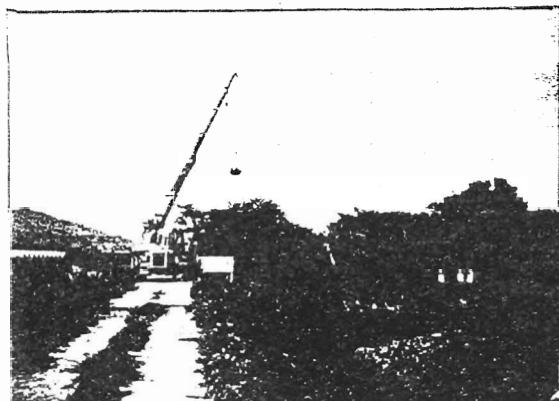
(T・H)

5月3日、三ヶ村泉水利組合により、ついに不法投棄されたゴミの撤去が行なわれる事になり、くらしの学習会のメンバーとして作業を見守る事になりました。

朝9時、現地には既に大きなクレーンとパワーショベルが一機ずつ、10名程度の人がスタンバイしどういう作業になるのか不安がよぎりましたがあの急勾配では、機械は人の手助けとして利用され、人海戦術でゴミを、クレーンの網に入れ持ち上げ取り除く作業で木々もあまり痛める事もなく正直ホッとしました。

結局、夕方まで作業は行われ長年投棄され続けたゴミはかなり堆積していましたが、取りきる事は出来なかったようですが、後日、砂を入れ修了となったようです。

5月14日、個人的に泉を訪れてみましたが、下草が刈られスッキリとした泉の姿でしたが、取りきれなかったゴミから流れ出た汚水によって泉に悪影響が及ばない事を祈りながら泉を後にしました。 (A・M)



NEWS

『三ヶ村泉』の絵はがきの写真を提供して下さった白形さんが、本業(イラストレーター)でのステキな『鳥』の絵はがきを作られました。丸三書店にて販売しています。



(2)

~~~~ 新聞記者 川崎治子さんを迎えて ~~~~

5月22日(水)午後7時半、林さん宅にて待望の“新聞記者”と話そうという試みに興味津々の面々が集まり、いつものように話の華がさきました。

川崎さんに私達の質問に答えてもらうスタイルで進行しました。

☆どうして、記者になったの？

いつ頃から思ったの？

◆なりたいものは色々変わった、その時々で。でも、今思うと、小学校4年生の時、学校新聞に自分の書いた記事がのって。自分の記事が話題になるのはいいと思った。それから、中学の時はサッカー選手になりたかった。高校の時は国語の先生。それから、外交官もいいなって思った。でも本多勝一との出会い、本を通してだけど、があって、大きく自分の中に方向ができた。それで、記者になろうと思った。

☆結婚との両立は？

◆う～ん、どうかな、じゃあ、一日の流れをちょっと。9時半に出社して、締め切りの原稿がある時は5時(夕)までにだして、6時にチェック、10時には刷り上がる。言ってしまうと、何て事はないんだけど。まあ、転勤もあるし、事件事故があると勤務時間と言うのはあってないようなものだし、難しいかな。

☆なる前と後で、変わったことは？

◆記事にたいして反応がね、もっとあると思ってた。ない、とくにこっち(愛媛)に来てからは、ほんとに。まあ、購読者数のこともあるとは思いますがとまどいました。記者って、人と会うことが大事なんです、どれだけ人間関係が作れたかが。記事にしても、与えられるものではなく掘り起こす仕事をした。まあ、切り札は新鮮な目。

☆コネクションの引き継ぎってあるの？

◆全くないわけではないけど、自分で開拓。

☆就職落ちたら、どうしてた？

◆留年して受けた。東京に帰ったかも。



紙面のつごうで、紹介しきれない話もたくさんありますが、毎度の事ながら夜の更けるのも忘れ、脱線を繰り返しながら続いた話の山的一幕をご紹介します。本日はお開き。

# 出あい塾に参加して

私は、新聞記者さんという職業の方はもっと派手というか、独特の雰囲気にも包まれた人だと思っていました。最初やってきた川崎さんを見て、私は出あい塾の参加者の方だと思っていた程、かざりけの無い方でした。学校についていろいろ話しをして、記者さんの頃と比較したりしました。記者さんの話もちろん面白かったし、学校を見る視野が広がったという感じで、本当に楽しい座談会でした。（中学生の感想です。）

人なつこい腫をしている人だった。

いつもと逆の取材される立場にいる彼女は、『何でも聞いて下さい。』と今の状況を楽しんでいるようだった。参加した中学生も、次第に彼女の雰囲気になじみ 質問が続いた。現在 彼女は教育関係担当ということで 学校にまつわる記事を書いておられる。

彼女は東京で生まれ育ち京都で学生時代を過ごし、この愛媛には、転勤ではじめて来たが愛媛の人は本当におとなしいですねと 言われる。朝日新聞は愛媛版として 2ページ取っているが、日常的に 事件の少ない県らしい。一見 平和そうに見える愛媛で 子供達をとりまく環境は 私の想像以上に悪化している。いじめ問題やテレホンクラブ関係など 表面化するのとは それが 事件になった時だけだ。原因を追及し 改善を思い切っしてしないと 水面下の事件は増すばかりだ。彼女は 自分の書いた記事が 編集長に 認められない時、とことん自分の意見を言うそうだ。納得できないうちは 引きさがらないという。

おとなしい=意見を言わない 私達、大人(親)が、事なかれ主義で口を閉ざしている間は、教育も地域も国も 良くならない。

今の社会状況に あきらめかけている私は 喝を入れられた気がする。(R・D)

## 自然観察会



6月8日(土)柳原泉に夕方集合して、ホタルの観察会をしました。出席者は6名でした。雨が少し降っていたので、中止になったと思っていた人もあったのかもしれませんが。でも初夏の夕暮れ、雨あがりの河原をのんびり歩くのは、なかなかいい気持ちでした。そして暗闇の中で光るホタルもどことなく幻想的でした。ホタル見物というのは、こういうふうには散歩も河原も草も、ゆったりした時間も夜の冷気も、皆そろっての一大イベントなのであったのかなどと一人で感じっていました。ここで、恥かしながら一句、「やわらかき児の手のひらや ホタル狩り」おそまつさまでした。(K,K)

以下小学生の感想です。

ホタルは去年より少なかったけど、きれいだった。帰りにホタルをたくさん取っている人に会った。1週間位しか生きられなくて、せいっぱい生きているのにそれを短くしてと思った。ホタルを自然にかえそうとしている人もいるのに、そのホタルを取る人もいるんだなあと思った。

5月27日(月)、久しぶりに奥重信に足をのばし、初夏の日差しを気にかけながら周辺を散策した。

巨木に囲まれた林にはいると、気温が下がっていることが自然に感じられる。やわらかな大気、しばしの森林浴になった。

上に登ってみようということになり、林道に入ると、大きな木の下ひんやりした空気とは異なりすぐ汗ばむ。帽子にスニーカーの出で立ちの友に従いながら、木の下にずーっといたかったと内心思っていた矢先、“ヘビ”の出現。

「ヘビぐらいいるでしょう。」と言う友、「ヘビだけはだめ。」と言う友。結局、ヘビには勝てないという三人目の発言に賛同が集まり、下山になった。ちょっと物足りない顔の友……。

その後、炭焼窯を見せていただく機会を得た。窯は土を何度も何度も重ねて作ってある。その度に強く叩いてあるので、セメントのように固い。昔ながらの作り方を知っている方の指導で、地域の方々の苦労作であった。

土の窯は、火入れ後少しずつ少しずつ膨張し、予定していた印の高さまで膨張した時、中の温度が適温になったと判断されているとか。日本には土塀とか土蔵とかがあるが、土の利用としては最適の物であると想像できた。日本家屋建築は、土壁が乾くまで、半月以上工事を中断している所をよく見かけるが、耐火材を使うよりはるかに火には強いのだろう。

その後、例会に名を借りた座談会が始まった。話題は尽きない。最近、メンバーの中に仕事を持った人が数人いる。仕事をし、趣味を持ち、ボランティアに参加する。忙しく過ぎてしまう日々の中で、今日一日は、自分の為だけに時を使った。心も体もリフレッシュ。

(M・T)



## 炭の効用

- 炭焼き釜の話が出てきたので『炭』の利用方法 ♪ 台所 >>> 水道水のカルキ取り  
色々お知らせします。興味のある方はお試し下さい。 揚げ油を長持ちさせる  
♪ 玄関・部屋 >>> 消臭・除湿 (かごなどに入れて部屋などの隅に置く) (掲げる時も保管時も油のなかに  
入れておく。)  
♪ 風呂 >>> 臭い・ぬめりが出にくい 炊飯器に入れてたく  
遠赤外線効果で良く温まる \* 台所用は(ふっくらとおいしく炊ける)  
(布袋に5・6個入れ沸かす。) 備長炭(堅くて崩れにくいので。)  
\* 風呂が終わったら炭と布袋はザッと水洗いをして ♪ 車内 消臭・電磁波の緩和  
干して置く。\* (布袋に入れて車内の四隅に置く)



前日の雨も上がり、時折日の差す静かなある日の午後、ある方の闘病生活のお話を伺う機会がありました。日頃、時間に追われる中、元気でいられることのありがたみなど考えたこともありませんでした。が、意欲的に生きていた私の父が、突然入院ということもあって身近な話題として自然に耳を傾けることができました。

その方は、人生経験豊かなだけに、まわりの人の話に振り回されることなく、冷静に現実を受け止められました。自分のからだを大切にしたいという心が現在の穏やかな生活に結びついているように思います。また、まわりの方々（特に奥様）の暖かい協力があり、前向きに人生を見つめていこうという姿勢があったことも強い味方でした。もし、情報を汲み取る力と行動力によってもたらされたある自分にあった新治療との出会いが無かったならば—、これにもまた強い運命を感じずにはいられません。退院後は、ゆったりとした時間の中で、さわやかな自然の空気を吸って、自然の恵みを口にす。夜は降らんばかりの星をながめながら—。

山の緑に目をやりながら、おらついた口調のお話を伺っていて、何か生きる元気をもらったような、さわやかな気持ちになりました。

いつまでも お元気で。

(G)

\*\*今後の予定\*\*

7月の定例会

7月15日(月)午後1時30分

町民会館

若者出あい塾

農業の話を予定しています。

・・・編集後記・・・

今回、多くのメンバーの原稿を載せることが出来、嬉しく会報を作る

事が出来ました。今後も協力のほど宜しく願いいたします。

暑い夏がやってきますが体に気を付けてお過ごし下さい。(A・M)

◎会員募集(随時募集)◎

活動会員2000円・購読会員1000円

<振込口座番号>01610-5-21026

☎964-6956(林)くらしの学習会

(6)